

岩手県立遠野高等学校 令和7年度 第1回学校運営協議会 会議録

日 時 令和7年5月15日(木) 13:10～14:10 会議室

出席者 令和7年度学校運営協議会委員及び本校職員 計12名

主な次第 ①協議

- (1)令和6年度における主な実績に係る報告について
- (2)スクール・ポリシー及び令和7年度学校経営計画について
- (3)学校魅力化の方策について

②各委員からの提言

③その他

議事録

1 令和6年度における主な実績に係る報告について

- (1) 令和6年度学校運営計画達成指標の達成状況
- (2) 令和6年度の主な実績
- (3) 令和6年度卒業生徒の進路状況
- (4) 令和7年度の入学者数及びこれまでの推移
- (5) 令和7年度の下宿生徒の状況

→ 以上について、副校長より概要説明。

<質疑応答>特になし、承認される。

2 スクール・ポリシー及び令和7年度学校経営計画について

- (1) スクール・ポリシー及び令和7年度学校運営計画
- (2) 岩手県立遠野高等学校特色化・魅力化ビジョン
- (3) 遠野市からの支援

→ 以上について、校長より概要説明。

<質疑応答>特になし、承認される。

3 学校魅力化の方策について

- (1) 市内からの入学生確保について
- (2) 市外からの入学生との居住先の保障
- (3) 特別な配慮を要する生徒への対応充実
- (4) 生徒の学力向上
- (5) 学校スタッフの減少
- (6) 部活動顧問の配置困難
- (7) 教員の働き方改革の推進

→ 以上について副校長より、いわて留学の受け入れ等の課題や対応、状況について概要説明。

<質疑応答>

- ・いわて留学は、サッカー部の生徒が多いようだが、サッカー部以外の生徒をどのようにあつめていくのか。

→（校長）様々な生徒を募集はしているが、現状サッカー部を希望する生徒が多いのが現状である。さらに、サッカー部以外の生徒の受け入れ先となる下宿等の確保をどうするのか等の課題を考えていく必要があると感じている。

→ 質疑応答終了後、承認される。

7 各委員からの提言

- ・ 総合的探究の時間で行われている「新しい『遠野物語』をつくるプロジェクト」は、開始から年数が経過してきている。これまでのフォーマットを、これからに合わせて見直しをしても良いのではないかい。可能性を広げる形に変えるタイミングではないかと感じている。
- ・ 昨年度実施した遠野市地域未来デザインプロジェクトによる台湾研修は、多様性へ配慮した学校づくりをしたいという問題意識をもって、生徒が参加した。制服や校則を、生徒達自身が考え、見直していく必要があると感じている。
- ・ 市内の中学生は減少しているが、進路は様々で、市外へ出ていく人もいるが、地元で学びたい生徒もあり、進路選択の幅があるようである。生徒の意見も聞きながら、遠野高校で頑張りたいことをつくってもらいたい。
- ・ 市内地元企業でも、大学との共同研究へ参加するなどしている。地元企業を、就職先としてだけでなく、ビジネスを通じた人材育成の場として活用してもらいたい。
- ・ 進路へ具体的なイメージをどのくらいできているのか。将来的に地元の人材となるので、遠野プロジェクトでも地元企業とふれる機会を増やしてほしい。
- ・ 生徒へ寄り添った幅広く多様な進路実現へのサポートできる環境をつくってほしい。進学以外にも就職への対応も含めて頑張してほしい。
- ・ 遠野プロジェクトは、1年間でメンバーが変化するなどして、探究の深化が未だ足りないように感じている。
- ・ 遠野市とも協力しながら、魅力の発信をしていきたい。
- ・ 遠野市内の中学生が、より入学したい高校になってほしいと思う。学校運営協議会の委員として、皆さん同じ思いであると思うので、いつでも相談してもらいたい。

8 その他

特になし